

第15回萩原 朔太郎賞が決まりました

伊藤さんの「とげ 抜き 新巢鴨地蔵縁起」に



伊藤比呂美さん

第15回萩原朔太郎賞は、伊藤比呂美さんの『とげ抜き 新巢鴨地蔵縁起』に決定。9月3日に行った選考会で、最終候補作品6点の中から選ばれました。ここでは伊藤さんのプロフィール、喜びの言葉などを紹介。賞の贈呈式と記念講演は、10月28日(日)に前橋文学館で行います。
問い合わせは文化国際課 ☎ 890-6522へ。

こんなときにはお地藏様。
あの雑踏の、昔かよった参道の。
行き着く先の大釜の。
お線香の煙を胸いっぱい吸い込んで五臓六腑に染み入らせ。
母の手の指足の指。
四肢の末端の神経たちに。
ぐさりぐさりと打ち込まれたとげを抜き。
このてのひらに染みついたうんこの臭いも取り除き。
ちっちゃな石の胸や腹。
きよらかな水をかけながら。
苦し。
苦しと洗い流そう。

『とげ抜き 新巢鴨地蔵縁起』より
「伊藤日本に帰り、絶体絶命に陥る事」から

選考委員は 入沢さんら5人

敬称略(50音順)
入沢康夫(詩人、評論家、仏文学者)、岡井隆(歌人、白石かずこ(詩人)、高橋源一郎(作家、評論家)、平田俊子(詩人、作家)。

伊藤さんのプロフィール

詩人。東京都板橋区生まれ。青山学院大文学部卒。70年代に詩を発表し始め、80年代の「女性詩」ブームをリード。昭和60年には『良いおっぱい悪いおっぱい』がベストセラーに。平成9年アメリカへ移住。平成10年、小説『ラニーニャ』で第21回野間文芸新人賞。平成18年、現代詩に復帰し『河原荒草』で第36回高見順賞受賞。

受賞を聞いて 喜びの言葉

ありがとうございます。これを詩集と受け取ってもらえるのが、わたしの関心でもありました。どう見ても「本当に詩集か」と疑いたくなる形ですから。でも「詩人が詩集だと言っているのだから詩集です」

9月3日、第15回萩原朔太郎賞の選考委員会を市役所で行い、5人の委員による選考の結果、最終候補作品6点の中から伊藤比呂美さんの詩集『とげ抜き 新巢鴨地蔵縁起』が栄えある15回目朔太郎賞に決まりました。

6つの作品が 最終候補に

最終選考に残った候補者・作品名・出版社名は次のとおりです。(敬称略。作品の50音順)
粒来哲蔵『穴(書肆山田)、四方田犬彦『人生の乞食(書肆山田)、川田純音『それは、消える字』(ミッドナイト・プレス)、伊藤比呂美『とげ抜き 新巢鴨地蔵縁起』(講談社)、北川透『溶ける、目覚まし時計』(思潮社)、天沢退二郎『人間の運命 黄麥綺草集』(思潮社)。

と我を通してきました。候補になって詩集と受け取られたことが分かり、さらに賞をいただいたり、評価もされたと分かって本当にうれしいです。人生の絶体絶命の危機に際し、現代詩に対する愛憎が切ないくらい高まって、やっと形になりました。

10月28日に 贈呈式など

賞の贈呈式と受賞者の記念講演を実施。駐車券の配布はありません。
日時 10月28日(日)午後1時30分
会場 前橋文学館
対象 一般、先着80人
申し込み 10月10日(水)～25日(木)に文化国際課へ

作品や著書を 文学館で展示

受賞作品などを紹介する展示を行います。
日時 10月6日(土)～28日(日)、午前9時30分～午後5時(月曜を除く)
会場 前橋文学館
内容 第15回萩原朔太郎賞受賞者・伊藤比呂美さんの受賞作品、著書などを展示
観覧料 無料
○：問い合わせは同館 ☎ 235-8011へ。